



あいちの会 NEWS



第26号

発行責任者/森島泰雄 編集/あいちの会NEWS編集委員会

認定NPO法人 あいち骨髄バンクを支援する会 〒464-0006 名古屋市千種区光ヶ丘1-22-7-105

電話&FAX052(712)0457 E-mail:npoaichi@tj9.so-net.ne.jp HP <http://www.aichinokai.or.jp/>



届けたいいのちのバトン ~知ってください、骨髄バンク~

10月19日(日)、名古屋市北文化小劇場において 骨髄バンク普及啓発イベント「届けたいいのちのバトン」を開催しました。

第1部は聖霊高等学校聖歌隊によるオープニングアクトから始まり 前半では骨髄バンクの説明・現状の報告をさせていただきました。また自身の白血病闘病経験から医師を志され、現在は血液内科医としてご活躍されている酒村玲央奈先生から、患者と医療者の2つの視点から見た臨床の現場についてご講演をいただき、次に国立病院機構名古屋医療センターで小児長期フォローアップ外来を担当されている前田尚子先生から、移植後の晩期合併症や長期フォローアップ外来の必要性についてご講演をいただきました。血液疾患、造血幹細胞移植、そして移植後の問題のそれぞれについてとてもわかりやすく解説いただきました。

後半では骨髄移植を受けた患者さん、骨髄提供をしたドナーさん、患者家族であり10代のドナー登録者である私の弟(私も高校生の際に白血病に罹患し、骨髄バンクから骨髄移植を受けた元患者です)、酒村先生(私の主治医でした)、前田先生、霊中学・高等学校の生徒さん4名にもご登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。患者さんのドナーさんに対する想い、ドナーさんが患者さんに想う気持ちを伺ったり 骨髄バンクを通じて骨髄提供を行い、実際に患者さんからいただいたお手紙の朗読では、今生かしていただいていることへの感謝の気持ちを改めて感じました。また患者家族である私の弟の想いを発病以来初めて聞き 当時は私だけではなく家族も一緒に闘病してくれていたことを気付かされました。そして中高生の意見からは、まだまだ若年層への啓発が十分でないこと、伝えていくことの大切さを学びました。

第2部では聖霊中学・高等学校チアリーディング部、和太鼓部の演奏があり、最後は会場全員で「見上げてごらん夜の星を」を合唱してイベントを終了しました。チアリーディングの明るいかげ声、和太鼓の力強い音に元気をもらうことができました。

今回のテーマは若年層への啓発。若い人にもっと骨髄バンクのことを知ってほしい。ひとりでも多くの患者さんを救うためには、まず知ってもらうところから始めなければ。その想いは伝えられたのではないかと思いますし、私たちも中高生の意見から学ぶことができました。パネラーとして登壇いただいた高校生の「親が私を大切に想ってくれるように、私も誰かを大切にしたい」という言葉は、今後の活動の中で忘れてはいけない気持ちであると感じました。お忙しい中ご来場いただきました皆様、ご出演、ご協力いただきました皆さまに感謝とお礼を申し上げるとともに、全ての患者さんが笑顔で元気になれるように歩みを止めずに活動し続けていかねばと、気持ちを新たにしました1日でした。

それぞれの「想い」が伝わってきました



聖歌隊の透き通った歌声でスタート



それぞれの「想い」が伝わってきました

それぞれの「想い」が伝わってきました

榎原 愛